

第3学年 社会科学習指導案

日時 平成17年6月10日(金) 5校時
生徒 3年B組(男子13名 女子9名 計22名)
指導者 教諭 菊池弘明

1. 単元名 「暮らしの中に生きる憲法」
((3) 現代の民主政治とこれからの社会 ア 人間の尊重と日本国憲法の基本原則)

2. 単元について

(1) 教材観

本単元は、人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深めさせるとともに、法の意義に着目させ、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせること、そして、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させることをねらいとしている。

ねらいを達成するためには、日本国憲法の基本原則を具体的な生活とのかかわりから学習させ、自由・権利と責任・義務の関係を社会生活の基本として広い視野から正しく認識させることが必要である。また、日本国憲法が基本的人権の規定とそれを保障する政治機構を主な内容としていることなど、日本国憲法の構成を大きくとらえさせることが大切である。

(2) 生徒観

・昨年度学習状況調査の分析(全体の正答率57%、県平均54%)

観 点	県の平均を下回っている問題数
社会的な思考・判断	3問(全6問中)
資料活用の技能・表現	3問(全8問中)
社会的事象についての知識・理解	3問(全19問中)

ア 社会的事象への関心・意欲・態度

社会科での授業への取り組みやニュースを話題に出したときの生徒の反応の良さから判断すると、社会科に対する関心は高いと思われる。全体として意欲的に課題を追究する生徒が多く、また、男子を中心に失敗をおそれず積極的に発言する。

イ 社会的な思考・判断

社会的事象から疑問を見出す生徒は多いが、その事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、判断できる生徒は少ない。また、思考し判断した事柄を適切に文章で表現する力が弱い。

ウ 資料活用の技能・表現

資料に親しみ、与えられた資料を適切に読み取る技能は高まっている。しかし、資料を数的に処理する技能、いくつかの資料を比較したり、処理したりする技能には課題を残している。

エ 社会的事象についての知識・理解

各種テストの結果を見ると、約7割の生徒は「十分満足できる」「おおよそ満足できる」状況にある。定着が不十分な生徒に共通することは、宿題への取り組みが不十分であることである。そこで、授業時間内における知識・理解部分の基礎・基本の定着のくり返しに努めているところである。

(3) 指導観

本単元は政治に関する学習の最初の単元であるため、生徒にとってなじみにくい用語が次々に出てきて、知識・理解をより困難なものにすることが予想され、さらにはそのことが生徒の興味・関心を失わせることにもなりかねない。

そこで、本単元の授業のテーマを「身に付けさせたいことがらを明確化し、生徒の知的好奇心をくすぐる授業を行うことにより、基礎的・基本的な語句をことばで書くことができるようにする」とし、指導を進めたいと考えた。そのために、1単位時間に必ず身に付けさせたい知識・理解面の語句を5つ前後にし、その時間内に小テストやペアでのQ & A、教師と生徒全員のQ & Aなどいくつかの方法を用いてくり返して徹底させたい。また、生徒の知的好奇心をくすぐるために、日常の社会生活と関連付けながら具体的事例を通して学習を展開していきたい。そして、具体的事例に対する生徒の考えを引き出し、交流させることによって、思考力・判断力を付けさせたい。

3. 単元の目標

(1) 【社会的事象への関心・意欲・態度】

人間尊重についての考え方と法に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、民主的な社会生活について考えようとする。

(2) 【社会的な思考・判断】

我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、民主的な社会生活の在り方について様々な考え方を踏まえ公正に判断できる。

(3) 【資料活用の技能・表現】

人間尊重についての考え方と法に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明できる。

(4) 【社会的事象についての知識・理解】

人間尊重の考え方を基本的人権を中心に深め、法の意義と法に基づく政治の大切さ、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていること、天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解し、その知識を身に付ける。

4. 単元の指導計画と評価規準(12時間扱い、本時5/12)

時間	学習内容	評価規準			
		社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
1	人権尊重と日本国憲法			人権思想発達 of 歴史と日本国憲法の制定に至るまでの経緯を教科書や資料集などによって調べ、まとめることができる。	人権思想発達 of 歴史と日本国憲法の制定に至るまでの経緯について理解し、その知識を身に付けることができる。
2	憲法の三つの柱			平和主義と自衛隊のかかわりについて、教科書や資料などを使って調べ、自分の考えをまとめることができる。	憲法の三つの基本原則及び天皇の地位と国事行為について理解し、その知識を身に付けることができる。
3・4	差別の撤廃を目指して	いまだに残っている差別事象について教科書や資料集などから積極的に把握しようとしている。	世の中には、様々な不平等や差別がなお存在していることを知り、それに対して、解決の方途を自分とのかかわりで考えることができる。		個別の差別問題の歴史的・社会的背景を正しく理解し、それぞれ何が差別なのかを理解し、その知識を身に付けることができる。
5本時・6	自由と責任のはざまで		基本的人権が公共の福祉のもとで制限されるのは、どのような場合であるのかを判断することができる。	自由権の具体的な事例に関する問いへの自分の予想を検証する資料を見つけることができる。	自由権の三つの種類を理解することができる。また、公共の福祉の意味と国民の義務と責任について理解し、その知識を身に付けることができる。

7・8	社会権の登場	人間らしい生活とはどんな生活かを考え、憲法が保障する社会権に関心を持ち、意欲的に追究している。	社会権の考えが生まれた背景について考察し できる。	社会権にかかわる様々な資料から問題点を読み取り、まとめることができる。	社会権の考えが生まれた背景と社会権の内容を理解し、その知識を身に付けることができる。
9	人権を守るための権利	人権侵害の実例から、実社会の人権問題に関心を持ち、人権を守るために、人権の大切さを積極的に考えようとしている。			人権を守るための権利を理解し、その知識を身に付けることができる。
10	現代社会の変化とわたしたち		新しい人権が生まれてきた背景を社会の変化の具体例をもとに考察し、新しい人権の意義について考えることができる。		新しい人権が生まれてきた背景とその内容を理解し、その知識を身に付けることができる。
11	人権を守る世界の現場から	国際社会における人権問題にどのようなものがあるか、また、日本政府の取り組みやNGOの活動に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。			世界に広がる人権問題とそれに対する取り組みについて理解し、その知識を身に付けることができる。
12	単元テスト				

5. 本時の指導

(1) 本時の目標

- ア 自由権の具体的な事例に関する問いの自分の予想を検証する資料をみつけることができる。
- イ 自由権の三つの種類を書くことができる。

(2) 本時の評価の観点と具体の評価規準

評価の観点	具体の評価規準		
	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒への手立て
資料活用の技能・表現	自由権の具体的な事例に関する問いへの自分の予想を検証する資料を見つけことができ、その資料が適切なものである。	自由権の具体的な事例に関する問いへの自分の予想を検証する資料を見つけことができる。	条文の【 】内の自由という文字に注目させる。また、1つについて一緒に条文を探しながら、調べ方を確認する。
社会的事象についての知識・理解	自由権の三つの種類を書くことができ、その内容についても正しく理解できている。(5問以上の正解)	自由権の三つの種類を書くことができる。	次時の本時の復習の際に、重点的にQ & Aを行う。

(3) 本時の展開

段階	学 習 活 動	支援、評価	教具・留意事項
導入 15分	1. 前時の復習の全員Q & Aを行う。 ・法の下の平等 ・男女雇用機会均等法 ・男女共同参画社会基本法 ・全国水平社 2. 自由権にかかわる事例の資料に関する問いの答えを予想し、プリントにまとめる。 ・生命・身体の自由 (法定の手続きの保障) ・精神活動の自由 (思想及び良心の自由) ・経済活動の自由 (職業選択の自由) 3. 各自の予想した答えの確認をする。 4. 本時の学習課題を把握する。 【学習課題】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 日本国憲法では、どんな自由が保障されているのだろうか？ </div>	・分からなかったら学習プリントで確認させる。 ・教師が資料を音読する。 ・板書する。	・資料1 自由権にかかわる事例 (プリント資料)
展開 20分	5. 1つの事例について判断した理由をプリントに書き込み、発表する。 6. 各自の予想を検証するための憲法の条文を第19条、第20条、第21条、第33条から見つけ、予想を検証する。 7. 問いの答えを確認し、どのような自由に基づいたものなのか確認する。	・意見の大きく分かれた事例を取り上げる。 ・条文の【 】内の言葉に注目させる。 ・適宜質問を受け付ける。 【技能・表現】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 自由権の具体的な事例に関する問いへの自分の予想を検証する資料を見つけることができる。(資料プリント) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 条文の【 】内の自由という文字に注目させる。また、1つについて一緒に条文を探しながら、調べ方を確認する。 </div>	・教科書P189・190 ・教科書P47
終末 15分	8. 自由権の三つの種類及びその内容をまとめる。 9. 自由権の三つの種類について全員Q & Aを行う。 10. 確認のテストを行い、赤ペンで自己採点する。 11. 公共の福祉にかかわる事例の資料に関する問いの答えを予想し、プリントにまとめ、次時の予告とする。	・資料の答えと自由権の三つの種類を線でつなぐ。 ・1周する。 【知識・理解】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 自由権の三つの種類を書くことができる。(確認テスト) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 次時の本時の復習の際に、重点的にQ & Aを行う。 </div>	・学習プリントを配布する。 ・確認テストの回収。

(5) 板書計画

【学習課題】	
日本国憲法ではどのような自由が保障されているだろうか？	
自由権 (1) 生命・身体 の自由 奴隷的拘束・苦役からの自由 法定の手続き保障	答えの予想 (1) 許される 許されない
(2) 精神活動の自由 思想・良心の自由 信教の自由 学問の自由	(2) 認められる 認められない
集会・結社・表現の自由、通信の秘密 (3) 経済活動の自由 居住・移転・職業選択の自由 財産権の不可侵	(3) 認められる 認められない

社会科学習指導案

日 時 10月5日(水)5校時

学 級 1年A組(男子16名 女子20名 計36名)

指導者 教諭 佐藤 志津江

1 単元名 第2編 いろいろな地域を調べよう

第2章 都道府県を調べよう～岩手県の調査～

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、3つの規模の地域を取り上げて実際に地域的特色を追究する調査活動を通して、自らの力で地域的特色をとらえる調べ方、学び方を身に付ける態度の育成を目指すものである。授業では、3つの規模について段階を踏みながら、また、追究方法に変化を加えながら「自ら調べ、考え、発表する」態度を育てたい。

「都道府県の調査」では、岩手県、東京都を学習する。それぞれに多様なところもあれば、全く違うところもある。自分たちの住んでいる岩手県と比較しながらも調査を進めていきたい。

(2) 生徒の実態

教研式CRT調査の結果については、【社会的事象についての知識・理解】は若干下回っているものの、その他の3つの観点については、全国水準を上回っている。

ほとんどの生徒が意欲を持って授業に取り組んでいる。特に男子の一部が積極的に作業に取り組んだり、発表をしたりしている。そのため、女子生徒や一部男子生徒の理解の定着が弱いまま、授業が進んでいる現状もある。

授業では、場所当てクイズから、岩手県にいろいろな景観があることを知り、調査学習に興味を持たせたい。また、場所を予想できない生徒を抽出し、支援の手だての有効性について検証したい。

(3) 指導観

都道府県学習の最初である。学校所在地の都道府県である岩手県の学習から、都道府県学習に興味を持たせたい。そして、東京都でも地域的特色を追究し、統計的にまとめる力まで付けさせたい。

本授業では、場所当てクイズに個人、グループで取り組ませる。写真から読みとった根拠を元にそれがどの場所か予想させたい。そして、岩手県の多くの景観から、自分の調べたいことを見つけださせたい。

(4) 研究主題との関連

本時の授業は、「『思考力の育成を基盤とした授業改善』-学習動機の明確化-」の段階である。岩手県の調査で、調べ学習の基礎を培い、東京都の調査で資料の選択方法、資料収集の方法など調査学習の理解を深めていきたい。

本研究は、資料活用を利用した学習活動の工夫により、知識を活用して考えたり、調べたことをわかりやすくまとめる力が育つことを明らかにするものである。

3 単元の目標

【社会的事象への関心・意欲・態度】

調査する都道府県に対して興味を持ち、意欲を持って調査することができる。

【社会的な思考・判断】

自分が調べたい課題を考えることができる

【資料活用の技能・表現】

調査する都道府県について、写真や統計資料などを使い、調べ、まとめることができる

【社会的事象についての知識・理解】

調査する都道府県の、県庁所在地、人口数、主な山川名を理解することができる

4 指導計画と評価規準

次	時	指導目標	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学習 動機 の 明 化	1 本 時	写真からどの場所か考え、調査の課題を見つけることができる		写真資料から、自分が調べたい課題を決めることができる (ノート)	写真資料を読みとり、地図帳をもとに場所を予想することができる (プリント)	
	2 3 4	資料を収集させ、課題を解決する			課題について、統計資料やパンフレットなどで資料を収集し、まとめることができる (レポート)	
理 解 の 確 認	5	東京都の特色、あらましについて理解する	人口や交通、首都機能の集中などに着目することができる (観察)		東京都の特色、あらましを地図帳を使って調べることができる (ワークシートへの書き込み)	
	6 7 8	東京都の地域的特色をまとめる			商業、工業、交通、人口などの都市の課題について、統計資料や文献などで資料収集し、まとめることができる (レポート)	

活用場面の設定	9	単元の復習				各都道府県、調査に関する基礎的・基本的用語を理解する (ワーク・プリント)
---------	---	-------	--	--	--	--

5 本時の目標

(1) 目標

- ・ 写真資料から、自分が調べたい課題を決めることができる【思考・判断】
- ・ 写真資料を読みとり、地図帳をもとに場所を予想することができる【技能・表現】

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
思考・判断	自分が調べたい課題を選び、発表することができる	自分が調べたい課題を決めることができる	発表者の意見を参考にして、課題を選ばせる
技能・表現	どの場所か予想し、その根拠まで発表することができる	どの場所か予想することができる	班体型にすることにより級友の意見を知ることができる状況を作り、考えさせる。

(4) 展開

	学習活動・学習内容	留意事項・評価	配付資料・教具
導入 5分	1 都道府県の斉唱 東北地方の位置と名称	声を出して読んでいるか	黒板
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 岩手県の調査(1) ~ 景観写真をもとに、岩手県についての調査テーマを決めよう ~ </div>			
展開 35分	3 場所当てクイズ(個人) ・自分たちが住んでいる北上市の写真 写真資料を観察させて、どの場所か答える	【技能・表現】 写真を見て、どの場所か予想することができたか。 北上市であることを理解できたか。	写真 白地図
	4 場所当てクイズ(6人班) ・県北地域(レタス高原) ・沢内村(豪雪地帯) ・三陸海岸(リアス式海岸) ・葛巻町(山地・牛の放牧) ・一関市(北上川と水田) ・盛岡市(町並、岩手山) 写真資料を観察させて、どの場所か予想し、理由を発表する。	班ごとに検討し、班としての予想をまとめることができたか。 予想した根拠も盛り込んで発表することができたか。 ・発表する生徒は教師から指名し、全員に発表させる。 岩手県の地図にそれぞれの場所に写真を貼ることができたか	写真 地図
	5 作成した地図の読み取り	・岩手県にはいろいろな所がある。 ・北上川沿いに水田が広がっている。 ・北側は水田はなく、畑がある。	プリント
終末 10分	7 調査大テーマを決める。	【思考・判断】 調べたいテーマを決め、理由まで書くことができたか。	ワーク ノート